令和５年度第３回宗像市男女共同参画推進懇話会　議事録

日時：令和６年１月１６日（火）１３時３０分～１４時４０分
場所：メイトム宗像　１０１会議室
出席者（敬称略）

委員	出欠	委員	出欠	委員	出欠
石山　さゆり	○	小森　雅子	欠	山田　雄三	○
久保　春奈	欠	入江　有希子	欠	石橋　文恵	○
北原　一臣	○	戸畑　典子	○	小野　稔	○
永嶋　久子	○				

事務局出席者：城戸、加藤

○委員
●事務局

１　はじめのあいさつ

宗像市男女共同参画推進懇話会　会長　石山さゆり

２　議事録署名人選出

議事録署名人　：　戸畑　典子

３　報告

【事務局】特になし

４　議事

(1) 意見書について

●（前回コメントの修正箇所を説明）懇話会意見が所管課にどう伝わり、それが事業にどう反映されているかがわからないというご意見をいただいたので、それをP3とP8に反映している。

○直接、委員と協議する、聞き取りをするのは難しいと思うので、ヒアリング時にペーパーで各課に提示し、回答をもらう工夫をしていけば良いのではないか。

○男女課としてヒアリングの際に所管課に深く聞き取りをできているのか。

●ヒアリングが現状把握の聞き取りに終始している。男女課がもう少し深く聞き取りを行う。やっていること、進行中のことについても報告しきれていない部分があるので、それもきちんと記録として残して懇話会の中で報告するということが必要かと考えている。

○委員が直接聞き取ることは難しいのか。

●多くの課にまたがるので、全部の課に懇話会の方で聞き取っていただくことは難しい。男女課が事務担当レベルで聞き取りすることは可能だと考えているので、優先順位を決めて深く聞き取り、一つ一つ前に進めていきたい。４次プランの策定もあるので、今後はもっと焦点を絞って、実績がわかりやすくする必要があるかと考えている。

○何の事業をしているのか、その評価・改善の仕組みが確立されていないことが課題だと考えている。懇話会で評価したものに対して、項目を絞ってでも良い

ので、ヒアリングの段階で、この提案に対してはできる、できない、というのをかたちではなく改善に焦点をあてて返してもらうというのをしっかり整えるということが大事である。

○第４次のプランに関わっていく話だが、評価の項目をしっかり設けることが大事。イベントを何回して何人参加したか、という指標ではどう進んだかが全く見えない。どれだけ進捗しているのかをしっかりと考えて評価の指標を作っていくということが大事ではないか。

○委員としてはもどかしい。懇話会で熱意をもって真剣に検討していることがダイレクトに伝わっていないような印象を受ける。

○懇話会が提案して、間に男女課が入ると、自治体の中で何ができて何が難しいのか分かった上での話になってしまうので、外部である懇話会の意見が直接届く仕組みがある方が変化につながるのではないか。

○優先順位をつけてこれとこれをしましょうというかたちにしないと、全部をやるのはとても大変。宗像市の住んでいる人が優先なのか、企業を活性化させるのが大事なのか、そういう分析があればそれをした上でやっていくということを考えてほしい。限られた人と予算の中で、それぞれの市の特色を活かす。みなさん要望は色々あるかと思うが、何を一番に持ってくるのかということを考えることが大事。

○今は漠然としているので、特色をつけてほしい。子育て世代を中心にするのか、子どもの教育を柱にするのか。一本の柱があって、そこを重点にやっていくのが良いのではないかと思う。市街地とそうでないところで課題も違うし、そこを踏まえてどう進めていくのかを考えて、宗像市で一番これはというところを抽出してもらうのが良い。

●今一番必要なのは、具体的に整理することかと考えている。一方で、市としては、宗像らしい目玉となるようなものも必要だと認識している。事業計画や予算の都合もあり、今年いきなり何かするというのは難しい部分はあるが検討はしていきたい。男女課としては女性活躍や女性支援を打ち出したいと考えていても、実際の事業をするのは担当課であるため、調整しながら進めていくしかない状況にある。

○男女課としても特色を出してはどうか。センターの講座などの内容もそうだが、せっかく良い内容をやっていたとしても次につながっていかない。男女共同の考え方が宗像市の中でどれだけ波及しているのかが見えない。

●発信の仕方が今まで通りだと変化につながらない。２０人規模のセミナーをやっているが、募集をかけても人が集まらないのは発信方法の改善が必要だと思っている。まず興味を持ってもらうというところが足りていなかったのかもしれない。

○このメンバーであれば要望を一方的に言うのではなく、前向きな対話ができると思うので、市との対話の場があっても良いかと思う。

○「女性が生きがいを持って過ごせるまち」となれば、自立しやすいのか、出産しやすいのか、子育てしやすいのか、など分類できると思う。焦点を絞って、よその方から見て「宗像市とは」というカラーを出せれば良いかと思う。

○企業なのか、住民目線なのかというのが気になっている。宗像市はどういう地

区で、どういう人口動態で、どんな人が多くて、出生率がほかの地域にくらべてどうなのか。その地区がどんな地区なのかを分析して、地区の問題が何で、それに対してどう目標を立てるかというかたちでつくっていく。そうすると、優先順位や基本目標が決まってくるのではないか。

●最終的なものではないが、今の時点では、まだ男女は平等ではない部分があるので、女性に収入があって色々な選択肢があるというのが大事だと考えている。企業か市民かというと、「市民」で「女性」がストレスなく自由に働ける。それも、色々なライフステージに応じて選択できるということを応援する。そしてそのための知識をセミナー等で発信していく。働く場があれば市内に勤めたいという方も出てくるので、次の段階として、企業にも出向いていって情報共有することもできる。市外に勤めていれば企業には手が及ばないが、宗像市で女性が活躍できるとなれば、自然とリーダーも増えていくのかと考えている。

○働く世代の方にとっては自立できるというのはとても大事だと思う。それと同時に、宗像市は高齢化が進んでいる現状もある。宗像市はコミュニティ施策が浸透しており、コミュニティごとの活動がとても盛んであるので、そこに若い世代をどう巻き込んでいくかというのも大事であると思う。

●そういったことも必要だと考えている。若い世代に入ってもらうには、そこで何をしていて、どんなメリットがあるのかということを伝えていく必要がある。

○日の里地区では、４８棟のこともそうだが、８年生が地区のことを考えて企画してくれている。それを家庭の中で話をしているところもあるようである。そういったことを地道に続けていくしかないと思う。

○共同体を作るのが大事。なぜ作るのかというと、今回地震があったが、そういういう何かあったときのため、というのがどこかにあると若い人も動きやすいのでは。ただ、コミュニティを作りましょうではなくて、何かあったときにコミュニティがあると動きやすいですよ、役に立ちますよという動機付けがはっきりしていると、それをきっかけにして男の人の視点、女の人の視点でコミュニティを作っていくという動きになればと思う。

○西日本新聞の記事で見たが、避難所の役員が男の方が多いという現状があり、女性は３割はいれてほしいというふうに書いてあった。女性が困っていることを男性に話してもわかってもらえない部分がある。それはコミュニティでも同じだと思う。女性が困ったときにすぐに動けるという体制づくりが大事だと思う。

→出席委員全員の賛成で承認。

(2) 第４次プランに向けて検討

●次回以降、個別に話をしていければと考えている。

○困難な問題を抱える女性への支援に関する法律が令和６年４月に施行される。今のプランでいうと２番目の項目で検討していただくことになると思う。県と一緒に取り組んでいただくよう協力をお願いしたい。女性支援新法と呼ぶが、この

法律の施行に伴って計画の方にも反映していただけるかと思っている。

議事録署名人　宗像市男女共同参画推進懇話会委員

戸畑 典子　印